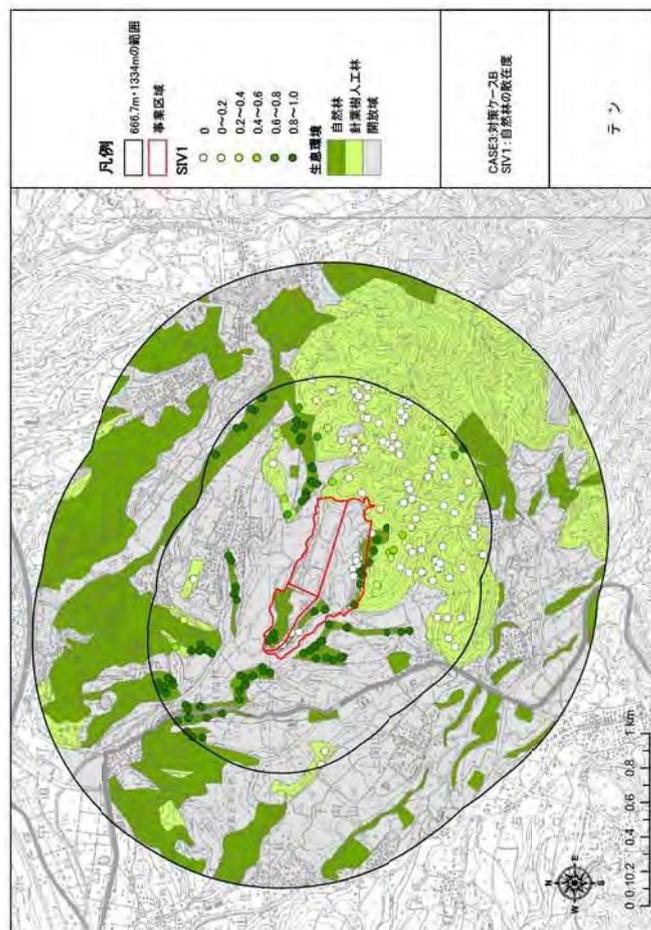
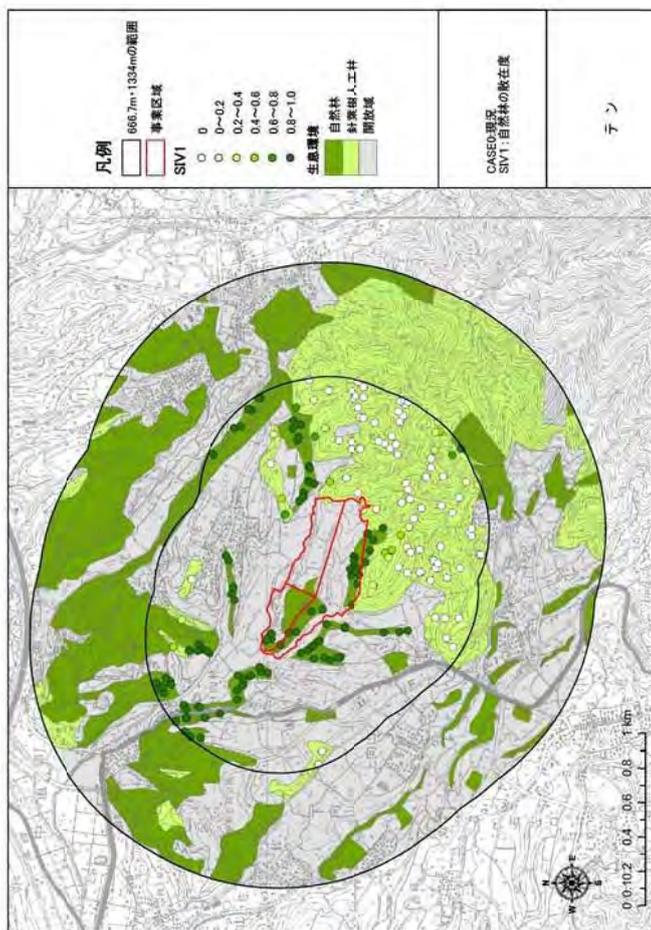
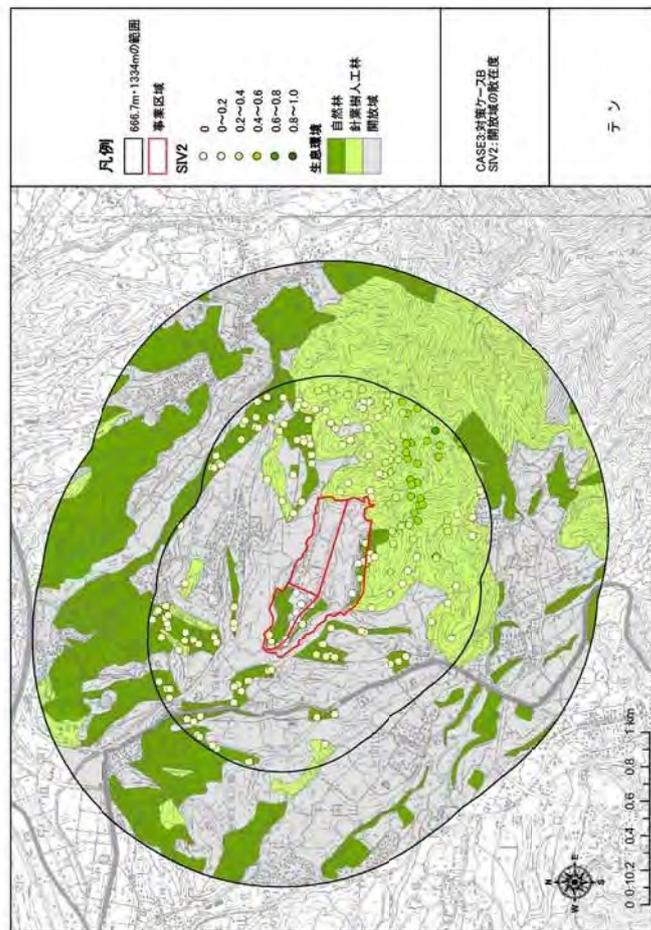
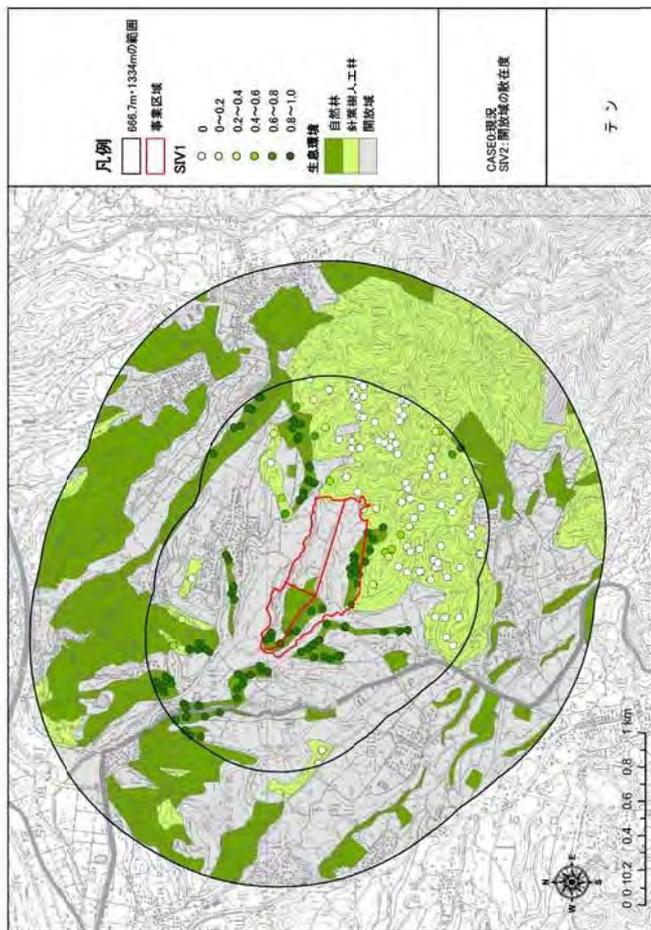
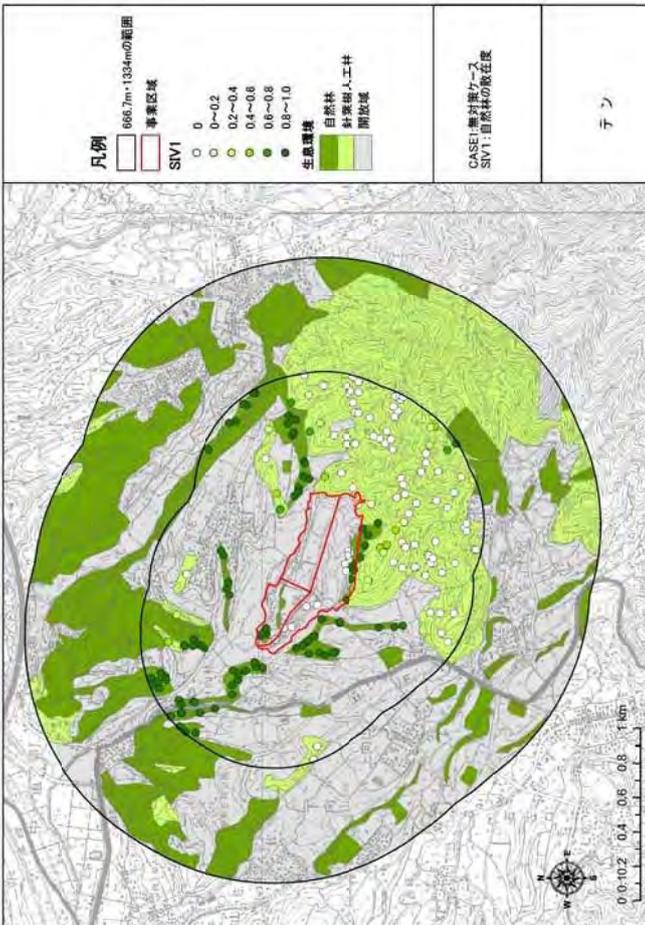
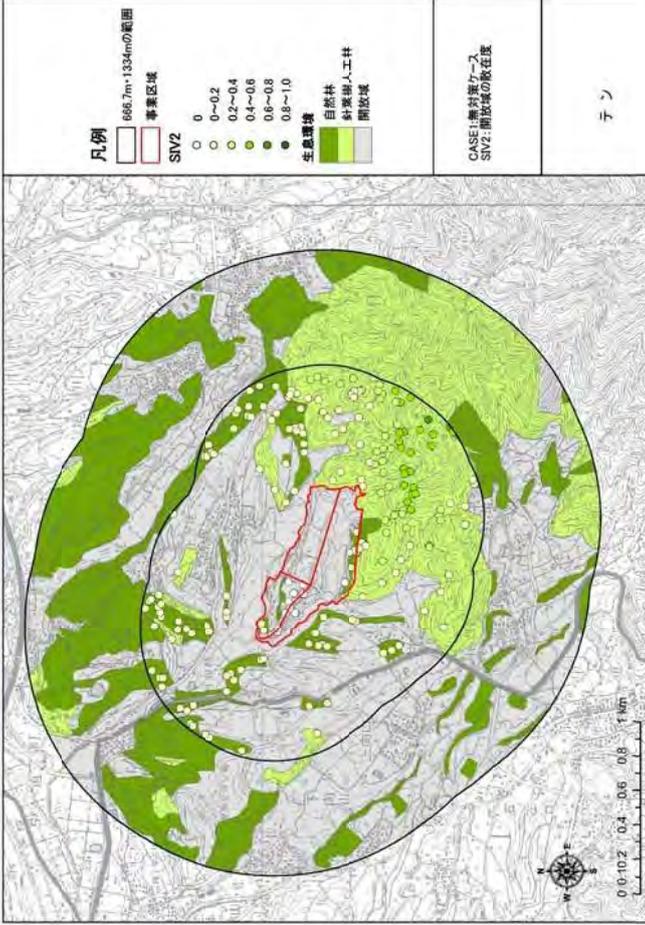
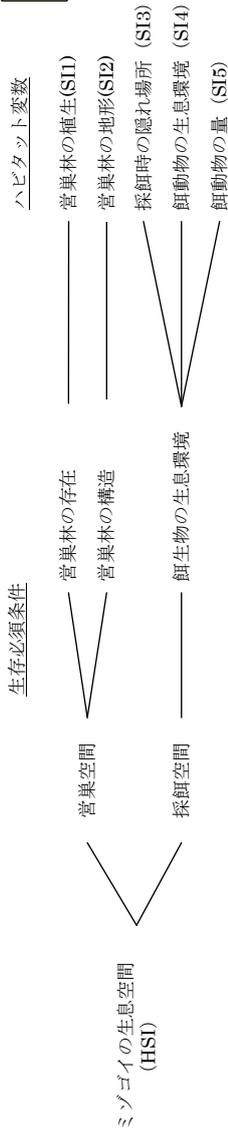


■2.9.6 テンSI、HSI算定結果





■ ミゾゴイ生息環境の定量化モデル



$$HSI = ((SI1 \times SI2)^{1/2} + (SI3 \times SI4 \times SI5)^{1/3}) / 2$$

SI	SI値	SI設定理由	参考文献																																																						
SI1: 営巣林植生	<p>①シラカン群落、コナラ・シラカン群落、クスギ・コナラ群落、針広混交林 1.00</p> <p>②その他広葉樹高木林 (環境保全措置で創出する広葉樹林) 0.50</p> <p>③アカマン群落、スギ・ヒノキ植林 0.25</p> <p>④その他の環境 0.00</p>	<p>・ 営巣木コドラート調査結果 (平成22年度調査結果) や既存の営巣木が位置する群落の情報 (平成20年度繁殖) による地域特性及び一般的な知見より判断した。</p> <p>・ 環境保全措置 (付替え河川周辺の植栽) の効果を表現できる植栽。</p> <p>・ 環境保全措置で創出する広葉樹林は十分に成熟した植生となるまでに期間がかかる想定されることから0.5とした。</p> <p>・ 現地調査で確認された営巣木は谷戸の斜面、文献による確認位置は山中等の記述が多いことから、斜面林を生息 (営巣) 適地とした。</p> <p>・ SI値は、営巣木確認地点の勾配15°以上を1.0、ほぼ平坦となる5°以下を0.2とした。</p> <p>・ ただし、CASE1及びCASE4において事業の改変区域は一律0とした。</p>	<p>Kazuto Kawakami & Hiroyoshi Higuchi Population Trend Estimation of Three Threatened Bird Species in Japan Rural Forests: the Japanese Night Heron Gorsachius gorsachius, Goshawk Accipiter githlis and Grey-faced Buzzard Buteastur indicus, 山階鳥類学雑誌, 95:19-29</p> <p>川上和人 (2005), 里山保全の主体は誰だ?, 森林部門技術士会誌 NO.99 22-28</p> <p>Hongshik OH, Youngho KIM & Nankyu KIM (2010) First Breeding Record Of Japanese Night Heron Gorsachius gorsachius in Korea, Ornithological Science 9:131-134</p> <p>Kazuto KAWAKAMI, Hiroshi UCHIDA & Masaki FUJITA (2005) Diet of the Japanese Night Heron Gorsachius gorsachius in Japan</p> <p>田島 藤 (1951) ミゾゴイの繁殖, 野鳥, Vol.16, no.5, 134-136</p> <p>加藤忠良 (2000), ミゾゴイの子育て, BIRDER 14(3), 37-41</p> <p>川口栞次郎 (1937), ヤマイボ (ミゾゴイ) の生態, 日本鳥類生態学資料 29-41, 養林書房, 東京</p> <p>江崎保男, 彦根安道, 遠藤菜緒子 (2008) 兵庫県三田市の市街地残存林でのミゾゴイの繁殖, 山階鳥類学雑誌, 40:56-58</p> <p>日向富士雄 (1993), 夏鳥を迎えた喜びは今, 夏鳥達の歌は今 - 和風鳥から西表島まで 102人の緊急レポート, 遠藤公男編, 三省堂, 東京</p> <p>藤原雅光 (1991) ミゾゴイに惹かれて, 渡良瀬川の野鳥, やまいぼ社, 足利市</p> <p>日向富士雄 (1994) ミゾゴイの繁殖, 野鳥, Vol.14, NO.9</p> <p>大西敏一 (2009) 鳥たちの私生活再発見! 里山の忍者ミゾゴイ, BIRDER 23, 13-15</p> <p>清藤幸保 (1978) 増補改訂版 日本鳥類大図鑑 III 993-935, 講談社, 東京</p> <p>川名国男 (2007) ミゾゴイの繁殖生態 ~ 東京における繁殖事例から ~, 日本生態学会大会講演要旨集 54th</p> <p>川名国男 (2008) ミゾゴイの繁殖行動と修正 ~ ミゾゴイは夜行性の鳥か? ~, 日本生態学会大会講演要旨集 55th</p> <p>川名国男 (2010) ここまで分かったミゾゴイの生態 ~ なげ, 夜行性の鳥といわれきたか? ~, 日本生態学会大会講演要旨集 57th</p> <p>宮崎八州男 (2007), 佐賀県で初めて確認されたミゾゴイの繁殖例, 佐賀自然史研究 13, 57</p> <p>松本令以 (2005), よこはま動物園におけるミゾゴイ (Gorsachius gorsachius) 救護の一例と神奈川県内での過去の救護例, 日本野生動物物医学大会・公大会要旨集 11th, 122</p> <p>川名国男 (2010) ミゾゴイの哺育活動, 山階鳥類学雑誌 42, 96-101</p> <p>川名国男 (2010), ミゾゴイの繁殖期における雛への給餌活動, 山階鳥類学雑誌 41, 207-211</p> <p>川上和人 (2006), ミゾゴイ Gorsachius gorsachius の食性の解明, 森林総合研究所多摩森林科学園年報 27, 18</p> <p>内田 博 (1996) サギ類 (サギ亜科), 日本動物大百科第III巻 鳥類 I (鶴, 鷺, 山岸共編), 39, 平凡社, 東京</p>																																																						
SI2: 営巣林の地形		<p>・ 採餌時に、猛禽類の捕食から避ける隠れ場所として、樹林が多い環境を生息適地とした。</p> <p>・ SI値は流域別の高木緑被率とした。</p> <p>・ ただし、流域番号10を1とし、高木緑被率比で各流域のSI値を設定した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>流域 NO</th> <th>SI3</th> <th>流域 NO</th> <th>SI3</th> <th>流域 NO</th> <th>SI3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>0.076</td> <td>5</td> <td>0.084</td> <td>9</td> <td>0.377</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0.000</td> <td>6</td> <td>0.315</td> <td>10</td> <td>1.000</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0.108</td> <td>7</td> <td>0.191</td> <td>11</td> <td>0.921</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>0.013</td> <td>8</td> <td>0.022</td> <td>12</td> <td>0.637</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>13</td> <td>0.231</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>14</td> <td>0.204</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15</td> <td>0.573</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>16</td> <td>0.149</td> </tr> </tbody> </table>	流域 NO	SI3	流域 NO	SI3	流域 NO	SI3	1	0.076	5	0.084	9	0.377	2	0.000	6	0.315	10	1.000	3	0.108	7	0.191	11	0.921	4	0.013	8	0.022	12	0.637					13	0.231					14	0.204					15	0.573					16	0.149
流域 NO	SI3	流域 NO	SI3	流域 NO	SI3																																																				
1	0.076	5	0.084	9	0.377																																																				
2	0.000	6	0.315	10	1.000																																																				
3	0.108	7	0.191	11	0.921																																																				
4	0.013	8	0.022	12	0.637																																																				
				13	0.231																																																				
				14	0.204																																																				
				15	0.573																																																				
				16	0.149																																																				
SI3: 採餌時の隠れ場所	<p>①広葉樹林 1.00</p> <p>②湿性草地、水田、水路 0.80</p> <p>③針葉樹林、畑、草地 (環境保全措置で創出する広葉樹林) 0.60</p> <p>④竹林、サナ 0.20</p> <p>⑤市街地等 0.00</p>	<p>・ 餌動物の生息環境の植生を基本にSI値を設定した。</p> <p>・ 環境保全措置で創出する広葉樹林は十分に成熟した植生となるまでに期間が係る想定されることから、0.6とした。</p>	<p>①広葉樹林</p> <p>②湿性草地、水田、水路</p> <p>③針葉樹林、畑、草地 (環境保全措置で創出する広葉樹林)</p> <p>④竹林、サナ</p> <p>⑤市街地等</p>																																																						
SI4: 餌動物の生息環境		<p>・ 各流域の底層は冠層でバイオマス量が多いことから、ミゾゴイの餌動物量が多いと想定した。</p> <p>・ SI値は谷底最低部を1.0、尾根最頂部0.0とし、高さの比で直線的に設定した。</p> <p>・ ただし、CASE1及びCASE4において事業の改変区域は一律0とした。</p>	<p>①広葉樹林</p> <p>②湿性草地、水田、水路</p> <p>③針葉樹林、畑、草地 (環境保全措置で創出する広葉樹林)</p> <p>④竹林、サナ</p> <p>⑤市街地等</p>																																																						
SI5: 餌動物の量																																																									

■ 2.9.8 ミゾゴイSI, HS算定結果

